

市区町村名	愛媛県今治市	担当部署	地域振興部しまなみ振興局 しまなみ振興課
		電話番号	0897-72-8772
		所属メール	shimanamis@imabari-city.jp

1 取組事例名

地域と行政が連携した伯方分校および大三島分校の環境整備・魅力発信

2 取組期間

令和3年6月～

3 取組概要

行政や地域が三位一体となった座組による取組推進が功を奏し、高校再編により、令和8年4月からキャンパス制による多拠点（大三島・伯方）での1つの高校として存続することとなった。

○地域：伯方地域の募金活動や大三島地域のクラウドファンディングを活用した生徒を取り巻く環境の充実や魅力発信

○在校生：外部人材と連携した伯方分校生徒による学校CM作り、大三島分校生徒によるポスターの製作や写真展示、参道ガイドなどによる魅力発信

○行政：地域塾の運営に向けたソリューション導入にかかる支援や職員有志による魅力発信等のサポート

4 背景・目的

○人口減少により、島内の小中学生についても年々減少

○生徒の島外進学により、今治西高校伯方分校の存続が危機的状況（令和4年度の入学者が31名を下回った場合、その2年後に廃校）

→上記の背景を踏まえて、島外からの生徒を誘引するとともに、地域の活性化に向けた取組を開始

5 取組の具体的内容

○地域未来チャレンジ塾の開校に向けた支援

両分校の学習環境を充実させるため、スタディサプリ（リクルート社）を活用するための予算を上程した。これにより、地域が主体となって補助事業者として地域塾を運営し、生徒が主体的に学習できる環境を整備することができた。また、生徒の職業観の育成や将来の可能性を広げることを目的として、定期的に外部講師を招き講演会を行った。

○下宿家賃、島外からの入学生の通学費の援助

全国募集による入学生の下宿家賃及び入学生の通学費の援助を行うため、伯方分校存続支援対策協議会が募金活動を行い、入学生確保に努めた。

○下宿環境の向上や魅力発信に向けたクラウドファンディングの実施

大三島分校振興対策協議会がクラウドファンディングを実施し、下宿のエアコン整備等にかかる費用や入居・退去に伴う改修経費、また都市部での説明会参加経費の支援を得るため、全国の支援者から支援を得た。

○分校生徒による魅力発信

伯方分校生が思う伯方分校の魅力を伝えるCM作りを行い、学校ホームページでの公開やオープンスクール時に放映するなどし、魅力発信を行った。

大三島分校の写真部生徒が主体となり、魅力発信ポスターの製作にクリエイティブディレクターと連携し取り組んだ。また、高校のOBである市職員「サポート隊」と連携し、島内や陸地部の大型商業施設における「まちなか写真展」を実施した。加えて、大山祇神社の歴史や街並み、文化を紹介する参道ガイドを生徒自らが地域の歴史を学び情報発信することで、大三島を訪れる交流人口に地域の魅力を発信した。

6 特徴（独自性・新規性・工夫した点）

地域住民、在校生、地域に住む高校OBの市職員や行政が連携した取り組みを展開しており、地域と行政が一体的に取り組みをすすめるなかで、愛媛県教育委員会の尽力を得て、今治西高校伯方分校と今治北高校大三島分校がキャンパス制として存続することとなった。

両校が統合し設置されるしまなみ海洋高校（仮称）については、愛媛県県立学校振興計画に魅力化推進校として位置づけられ、島の特徴を生かしたマリンビジネスや島の農業を学ぶことが可能な総合学科とされている。

7 取組の効果・費用

課題感をもつ地域住民が募金活動やクラウドファンディングなどの取組を主体的に取り組み、高校存続に向けた機運が市内外において醸成されるとともに、呼応する形で行政においても地域の課題解決に向けた予算措置を行った。

行政と地域、学校が連携して取り組むことで、愛媛県教育委員会の尽力もあり令和8年4月に今治西高校伯方分校と今治北高校大三島分校のそれぞれの校舎を活用する形で統合され、しまなみ海洋高校（仮称）が設置されることとなった。

【費用】スタディサプリの導入およびランニングコスト等：35,100千円（令和3～6年度）

8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

全国的な生産年齢人口減少により、今治市においても若年層減少に拍車がかかるなか、島しょ部という立地もあり市内から進学者を確保することが難しくなっていた。

令和3年度から取組を始め、令和4年度の入学者数は伯方分校44名、大三島分校37名であり、効果があったと考えられる一方で、令和5年度は伯方分校34名、大三島分校31名であり、引き続き減少傾向であるため、継続して入学者数を確保する取組を検討する必要があると考える。

9 今後の予定・構想

現在、令和8年度のしまなみ高校開校のため新校開設準備委員会でカリキュラム等の検討が行われている中、本市としてもしまなみ海洋高校の発展に向け、引き続きスタディサプリの活用による学習機会の提供等を行いたいと考えている。

また、愛媛県内で初めてのキャンパス制度導入のため、本市としても新たなサポート案を模索しつつ、愛媛県教育委員会、両校、地域と連携し、更に島しょ部高校の発展に尽くしたい。

10 他団体へのアドバイス

地域の課題感を基礎自治体である市が捉え、そのニーズを拾い上げることで、それぞれの立場において可能な取組を進めることが肝要となる。

さまざまなシーンで地域および行政が市内外に取組をPRや広報を行い、広域自治体においても基礎自治体における課題感と解決に向けた取組を拾い上げ、高校の統合・存続・設置に至ったものであると考えている。

11 取組について記載したホームページ

伯方分校ホームページ（学校CM掲載）

：<https://ehm-hakata-h.esnet.ed.jp>

大三島分校クラウドファンディングサイト

：<https://camp-fire.jp/projects/view/418450>

今治市しまなみ振興課 Web サイト（今治市にできる新しい高校の「校名案」募集）

：<https://www.city.imabari.ehime.jp/shimanamis/HS/001/>

